

『どうすれば街は快適なのか』

講師：安原秀（ヘキサ代表）

コメンテーター：江川直樹（現代計画研究所）

安原です。宜しくお願ひします。（拍手）

江川さんに唆されまして、勝手気ままな題を付けたものですから話をさしてもらいに際してどんな話をすればいいかということで困ってしまいました。だけど、考えてみますと自分がやっていることをそのままその通りお話する以外ないということで、今回は普段やっていることをそのまま話さして頂いて皆さんの議論の叩き台にするということにさせて頂きたいと思っています。ただ、初めに最近思っていますことを少し思いつくままにしゃべらせていただきまして、それでその後、普段やっていることをお話させて頂きたいと思っています。

街と人との関わり合い

大阪駅の北側にヨドバシカメラというものが出来ました。出来て一年ぐらいになるかと思ひます。たまにJRに乗ったりする時その近辺を通りまして、ちょうど地下一階と一階とで、そのビルに街から入っていきける形になっています。皆さんも先刻承知だと思ひます。ずーと街の連続で入って行き、いざ中へ入りますと圧倒されるくらい物と情報が並んでいまして、まあ簡単に我々が知っている世界で言うならば日本橋の電気屋さんの街がそのまますっぽりあのビルの中に入ったように思ひます。情報量といい商品構成といい、一つのビルの中に全部収まっていると言っているいいんではないかと思ひます。商品を買うについて品揃えは完璧のようすし、結構値段も割り引いてくれるということを若い人に聞きます。確かに手っ取り早くその手のものを買う場所だと思ひます。私は、圧倒的な情報の集積の場として、感心はするんですけど、あんまり心から感動するということはありません。これは、人によって受け取り方が違うと思ひますので後で皆さんの意見も伺わなければならないと思うんですが、店内に氾濫しているというのか天井から案内の紙が、とにかくいっぱいぶら下がっているとか、その下に商品がびっしり並んでいるという所へ入っていきまして、一種の醜悪な感じを受けて全然心地よい感じが致しません。これが同じようなものでも、日本橋の街を歩いていてその街の中に一軒一軒の店が連続的にあって、それぞれが繰り返し宣伝文句を書いた物をぶら下げているといったような、その方が私にとっては情報の入りかたが心地よいというふうに思ひます。

こういった、街と人との関わり合いというのですかね。そういう心地よさの議論をする場というんですか、これが今回の議論のテーマもあるんですけど、そういう場をもっと皆さんが持ってですね、本当に街はどうなったらいいんだろうということを軽くお酒を飲みながらでもよいのですけれど、しょっちゅう話しているということが有ったらいいのになと感じます。まあ、そんなことを最近感じました。

都市再生

話が全然違うんですけど、最近、都市再生ということが一つの社会的テーマになっていると思ひます。確かにこれは非常に重要だと認識はするんですけど、テーマになっているというのは、今の状況では政治とか行政とか経済界のテーマに過ぎなく、一般の都市居住者には何か他所の遠い出来事というんですか、関係ないところで経済政策として言われている都市再生と言うんですかね。そういう、都市再生という、言葉だけが上滑りして存在しているというような状況だと思ひます。私自身でも、多少その方面に関わりを持って立場所におりますので、少しはそういう目でものを考えなきゃいけないかなと思ったりしますが、一般人というのは本当に上滑りした言葉だけを聞いていて、まあ、これをして一種のしらけ現象というのかもかもしれませんが、そんな状況ではなからうかという気がしません。非常に大切なことであるにも関わらずそうしていることの問題点みたいなものをちょっと考えないといけないと思ひます。

このことは、東京と、大阪も含めた地方都市とで状況は違うかなという気はします。私は大阪にいて、大阪の人間としてこんなことを思っているんですけど、大阪から東京へ行く時、とにかく東京へ接近していくときに品川から汐留の辺りの林立する超高層ビルを見て目を見張ります。都市再生というのもこういう事業がとにかく目立つ、毎日それを見ている人は、あーこれが都市再生かなと思ったりするのもかもしれませんが、全くの東京現象になっていて本当に光が当たらないければならない地方というか大阪もその一つなのですけれども、光が当たっていないというか光が見えないという状況にあるなと感じたりします。

これが非常に大事なことというのは、まさに人口が減少する社会になってきているからだと思ひます。都市政策の転換が問題にされているのであって、これも

言葉が滑っているんですけど、グランドデザインがないと言われることがあります。本当にグランドデザインがなければならぬ、それも市民的レベルでですね、理念としての都市のイメージを語るという場面がもっとあったらいいのになと思っています。これはある種の希望を感じながら都市の姿を我々が共有すると、そして街への思いというか自分の日常生活の仕方を描きながら都市との関係で将来像を感じれるというようなこと、そういうことでありたいなということをしばしば思います。そしたら、大きな流れのところへ我々がポンと入っていくという事はまずないんですが、そこへ目というか意識が届きながら街を見ていくことがもっと普通に出来たらいいのになと思っています。

ならば、人口減少社会でいったい何を求めたらいいのかということなんですけど、開き直って考えますとある意味では人口減少なんだから、狭小住宅とかですね、交通の混乱だとか、地価が高いとか、といった我々の意識の根底に一種の脅迫観念みたいな格好で、しかもそれはもう諦めに近い常識ですね（私自身の中にもありますが、きっと皆さんの中にもあるかと思うのですけど）そういうものが根付いている。それを我々は何とかして払拭するというタイミングに今来ている。そのことと、その人口が減少して（都市再生でもいいんですけど）これから世の中を変えていくということとですね関係を持たして行きたいなと、この頃つくづく感じます。

そうなるためには、どうしたらいいのか方法論については僕には分かりません。分かりませんが、何となく考えられることは（東京は日本ではない所になってしまっているのかもしれないが）一極集中をさせて空間的、時間的それからもう一つ美意識も含めてですね、ゆとりを持った生活環境をゆっくりとイメージしてですね、手にすることができる時期、これが来ると違うかなと思ったりするんです。

だから、例えば自然というんですか、その農地まで含めた都市に近いところの河川とか緑地とかそういったものをちゃんと蘇らせて自然空間を豊かにしながら都市活動をより利発にしていって、そんなバランスをさせる気持ちにならないかのかなと思ったりします。それで、どうしたらいいのかわからないけど、それを認識だけはしとかんといかなと思うわけです。

もう少し、都市再生にこだわってみますと、商業活動に片寄った都市再生の行為だってそれがいいことにはエンジンにならないというか牽引力になりませんから、やっぱりそれがいいといけないうことはあると思います。大阪でも最近では超高層マンションが何ほほも建設されているようです。

デベロッパーの間では、今しばらくの間は都心のマ

ンションはやれるというか、今しばらくというのは団塊のJrの世代が家を持ってしまったらその次は、どうなったらいいかわからないというようなことをデベロッパーの方がおっしゃってますし、これはデベロッパーだけの話ではなくて、世の中全体がそう考えていかなければいけないのですけれども、今は建てたら売れるというような雰囲気があるんですけど、ここで大切なのは広告等に氾濫している都市居住とか、都市回帰とか、都市の利便性とか、そういった言葉も言葉だけが滑っているように思うんです。経済活動として土地が在ったらそこに物建てようということでもって建てて、そして建てるという行為にむけてそれをどうやって売るといふか、人にその情報を伝えるか、という所で、こう言ったら悪いけど広告屋が一生涯懸命言葉を考えて滑った言葉でもって物事の現象を伝えているということがあると思います。これは私自身も同じような場で仕事をしているわけですから、ちゃんと反省してやらないといけないうわけなんですけど、今本当に都市回帰云々ということで都心にマンションが建っているという中ではですね、その辺は常に危険な状態になっているように思います。ですから、市民というんですからねここにいらっしゃる方々皆さん、まさにそうだと思いますが市民がクオリティーの上がった都心に知的な刺激を心地よく感じながら住まわっていくこと、こういうことにどのようにしていけばなっていくんだろうということをみんなで真剣にしかし、気軽に話題にするということ、そんなことがあったらいいなと思います。

そこでもう一回さっきの日本橋の話にこだわって戻るんですけど、こんな事を思ったりしています。今までの日本橋の街というのは自然発生的に同業種の方がそこに集まっていますね、そこに集まったということだけの集積というような気がするんです。思い思いの宣伝のチラシをたらしめた店が並んでいる街。先ほどヨドバシカメラよりもやや心地よいということは言いましたが、けっしてこれは美しい街でも何でもなし、あるとするならばヨドバシカメラで働いている人よりも少し自分の店というこだわりを持って買う人と接触すると、あるいは本当に自分の技術にこだわってこんな店をしているという人がその場所に存在していたこととか、あるいはちょっと疲れたときにビルの隙間みたいなところに小さい喫茶店が何かあってその中に入って座っていると何となく得心するとか、そんなような面白さがあったということだと思っただけです。そこでもうちょっと街全体でネットワークを展開している空間も楽しめる街にしていくといった提案がその地区に向けてなされて、これ誰がするかと言ったらここに居る方々がやらなきゃいけないというか、デザインする

人が計画する人が提案するとか、何もそっちの専門家だけじゃなくて一般の人でも提案できるわけですけど、そういう人が一緒になってITの機器を使って双方向の議論を街イメージについてどんどんやると、そういうような仕掛けをしたら、ひょっとしたらヨドバシカメラと日本橋の商店とが今2つ大阪にいらないかもしれません。いらないかもしれませんが、街そのものが生きついた面白いものになっていくというか、どうしたらなるんかというようなことが全員の意見になって出てくると面白さがあるんじゃないかと。それはもうどっかに集まってやらなくても情報だけで双方向のやり取りをすればきっと面白いものができるんかというのがかなと友人と話をしたりしてるんですけど、そう簡単に実現することじゃありません。まして今のようないふの時にそんなことを言っても誰も聞いてくれへんなーと言いながら話してるんですけど、これも街関係をどう構築していくかということの一つの手掛かりではなかるうかと思ったりします。

まあ、こんなことを思いながら今日の「どうすれば街は快適なのか」というちょっととっさに付けてしまった題名を私なりに整理していきますと、どうすれば街は快適なのかということは読み替えたらどう街を快適に使うことができるのかということではなかるうかと思えます。それをよく考えると、街というのは元々刺激の多い魅力に富んだ所でして、快適な事と不快な事と両方あると思えますけれど、結構魅力のあるところだと思えます。じゃあその魅力の元はなんだろうといったら（そんなことはみなさん先刻ご存知のことですけど）やっぱり根本的なところは集積だと思えます。情報が集積している物は集積している。それから非常に複雑であるとか、興行、お芝居にしろ映画にしろ何にしろそういったものがいっぱいあるとか、それから結局出会いの機会が多いとか、そういったことの集積が街の魅力だと思えますね。じゃあそこで何に出会うんやろということを考えて、その魅力っていったいどこにあるんかなと思えますと、どうも私が思いますのは一種の宣伝されている所、宣伝の度合というんですか、それから複雑さではなかるうかと思えます。そこでやろうと誰かが発意していることに対する納得みたいなこと。こんなことが街との接触の中で面白い。あっこんな事やろうと思ってるなるほどな、ということの面白さ、そんなことを魅力に感じますし。それからそれを少し言い換えたら意外性の魅力というか、意外性に対する魅力というか、まあそんなことではないかと思えます。それからもう一つ無条件にデザインの面白さというか、これは理屈ぬきで面白いデザインに接触したときはとにかく面白いと。これを少し軽い言葉で言ったらかっこいいなという言葉がありま

すが、まさにこの感覚が街の出会いの面白さだと思います。それでこのことを突き詰めていきますと、結局は街の問題ではなくて自分の問題でして、自分の知的興味をどう満たしてくれるかということ、それが街の魅力であると思えます。

そうしますと、うまく街を利用することの快適さ、爽快さ、面白さ、自己満足、そういうことが街との出会いの楽しいことの一つですし、それから出会いの機会を利用して自分のやりたいことをそこで立ち上げていって、街との関係で何かをやっていくことが面白い。まあこのあたりに行き着くような気がいたします。

このセミナー全体のタイトルが「まちづくり」なんです。私は江川さんにも前からよく言っているんですが「まちづくり」という言葉は嫌いなんです。「まちづくり」という言葉は行政言葉であって市民の言葉でないということをやなんかと話をしていてよく言ったんですが、ようするに作っていくものが街ではないのではないかと生活者の側から言えば街というのは色々な生成過程での多くの行為が結果的に積み重なって出来たものが街じゃないのかと思えます。もちろんちゃんとした基幹部分とかそういう意味において「まちづくり」というのはあるんですけど、それはそういう仕事の行為を表す言葉であって、今ここで街ってどうなったら良いのかなと思って言うときには「まちづくり」という言葉はあんまり気持ちの良い言葉ではないと前から思っています。ですからそういうプロセスの中から魅力があるものを見つけていって、行為としてイメージしながら街に住んで、街を使っていきたいというような意味で、私はどうすれば街は快適になるのかというようなことを今日の話の取っ掛かりにしたというような気がします。まあこんなことを前置きにさせていただいて、実際に私たちが今までやってきたことを少ししゃべらせていただきたいと思えます。

都住創

今日はお手元の資料に都住創と寝屋川の萱島のネイキッドスクエアとこの2つの資料を用意しました。これはまさに自分たちがやってきたプロジェクトなんですがこれを紹介しながら、この2つは条件の違った所で同じような下敷きのあることをやっているという意味で比較して考えていただくにしても、それなりに面白いかと、というようなことでサンプルを提供して議論していただきたいと思っています。この2つのどこが共通点でどこが違っているところなのかということも色々な話の中で申し上げなければならぬんですけど。

まず都住創というのは住居という最も日常的な場、空間を問題提起としまして3つのテーマを出しました。

1つはこの資料の「始めに」というところにあります。(1976年の資料のコピーを今日は持ってきました。)それでここに書いてますことは、街というのは人が住んで働いて遊ぶ所だということは古来変わっていないということもありまして、当時と今は何も変わっていません。小さい字で書いてる文章の中にこの十数年のうちに街は変わったと、この十数年というのは1976年の当時の十数年です。今から思いますともっと長い期間なんですけど、あんまりそれも変わってないと思います。この当時はまだみんな郊外志向の時期でした。その時に都市に住もうということを一つの呼びかけとして訴えかけたわけですから。それで住むには家がないといけなくて家を作るとするならば決して街の中で一人で家なんか作れないと、そうすると共同で作らないとしょうがないと、そこでコーポラティブということになってくるんです。それからもう一つは、当時のことでしたので今は少し事情が変わっているんじゃないかと思えますけど、集合住宅の住まい方のルールみたいなもの。共同して住むということにまだそう慣れていない時期でしたのでそういった共同で住むということのルールをちゃんと確立していこう、という3つのことを当時のテーマとして掲げて呼びかけをしました。

日常的な場所について自分自身で見直して見ようではないか、あるいは自分がどんな所に住んでいるかということやちゃんと意識しながら住まう所を作ってみようではないかと、というような呼びかけが根底にあったんですけど、それからもう少し膨らんで日常生活レベルでの集合というか、人と人の出会いの場での活動についての問題提起。それからそれに対する空間的な提起、そんなことをやってみようというのが都住創の考え方でしたし、今もそのことは何も変わってないんです。これは集合住宅という手段を用いるからこそ共同化云々ということがテーマになって挙がってくるんだと思います。働くということをここに書いていますが、都市の中に住んでいるんですから働くというレベルでの住んでいる人同士の共同もありますし、あるいは情報の交換もありますし、そういった活動を実行してきたわけですから。それからもう一つ、後でスライドで見させていただきますが、かなり地域の中で我々自身が独自に住まっています。少し浮ついた言葉で言ったら遊んでいるといったような格好で住まってきました。ですから最近でこそ都市に埋没してしまいましたがあんまり目立ちませんが、当時は目立ちました。都住創の建物言うたら目だったんですけどね。だけどそこに家を作って住まっているといった行為がやっぱり一つの地域への発信になっていたということで興味を持っていただいた方々が外部にもできて、その方々を巻き込みながらやっていったという経緯があります。

最初は1976年です。その次に新都住創宣言と書いていますが、これが1999年です。これは何でこんなことがあったかといいますと、バブル時代に我々は何もすることが出来ませんでした。それでいっぺんやめやというような格好になってまして、それで1999年にもう一回やろうかというようなことで新しいテーマを作ろうということになりまして、都市に住んで働いて遊んでというようなことはもう当然のことで今更そんな事をいっても始まらんと、ならば豊かに自由に都市に住もうではないかと、まあ社会背景も当然変わっていたわけですけど、どうも日本人というのは建前として都市を作って、そこの世界の最先端の技術を駆使した街を作っているけど、本音としては郊外の戸建住宅に住みたいというこの2重構造があると、これやっぱりおかしいん違うかということをもう一回言おうではないか、ということを行いました。ずいぶんそれは状況は変わってきていますし、ここにも書いていますが、女性の方々が社会に進出されて街中に住まうということやなさってますし、それからもう一つ高齢化が進んで年寄りの方が街中のほうが便利で住みやすいということで、街の中にどんどん帰ってこられるという現象ははっきりとありますし、これはずっと前からそんなこと言われていたんですけど最近実感として感じるようになりました。だけど元気な年寄りと元気な女性がいたら街が成立するかといったら、そんなことはないわけであって、元気なファミリーというか元気な男がいて街がちゃんとなっていくかいかないかというように思います。

それから2番目に都市住宅の新しいスタイル像云々と書いていますが、そういったことを言いながら街の中で出来ている住宅というのは何にも街中の住宅になっていない、郊外で作っているマンションがそのまま街の中に来て、そこへたまたま与えられた敷地に合わせて家が出来ていて街の中の住宅になっていないということ。これはちょっとおかしいんではなからうかということや言おうと。つまり街中に住もう、街中に家を作ろうと十数年前に言ったけど、こんどはこんなもの作ったら街中の家と違うんかというようなものを作って見せようではないかと、ここでは言ったわけですから。

それからもう一つは都住創方式の供給システム云々と書いていますが、コーポラティブは色々な試みを行いました。例えば土地を等価交換して地主の方と一緒に事業を進めたり、それから土地を借りてやったこともあります。それから街中ですから一階には住宅でない店舗のようなもの事務所でもいいんですけど、非住宅があって、それを誰かが所有してということじゃなくて、そのグループが所有して、それを賃貸して運営していくというようなこともやりましたし、色々

なことをやりながら進めてきましたので多少のバリエーションには応じられるわけです。

それからもう一つは都住創センターという施設を住まう人の共同出資で作りました。それは 10 番目の建物に出来たんですけれど、そこで色々なことに使ってもらいたいたりしながら発信していっていると言うようなことをやりました。

そんなことをやりながら都住創ってやってきたんだということが 4 ページと 5 ページに書いています。都住創ヒストリーと書いていますが、この左下に年表があります実はたったこれだけのことしかしてないんです。左から 1 号 2 号とありまして、途中で中断しまして、25 まで出来ました。それで 21 号というのはどうも成立せんようになりまして今困っているんですけど、まあこんな格好で物を作ってきました。それで次のページには都住創センター云々と言うようなことを書いています。これが 10 号の建物を作るときに、1984 年に出来たんですけれど、都住創センターというものを作りました。なぜ作ったかということ、みんなそれぞれ近くに棟はあったんだけどそれぞれ別々に住まわっていて、住宅っていうものは一過性のものですから出来てしまうとそれで完結してしまうんですね、せっかく一つのグループとしてもものを作っていったんだたらなんかこう共通のつなぐものを作りたいなと発想しまして、都住創センターというものを作りました。ここにイベント紹介と書いていますが、これを今ずーとやっているんです。今月もやりましたし、住んでいる中の人だけじゃなく外の方にも来ていただいているとか、あるいは場所を借りてもらって芝居やってもらったとか、そういったことに使ってもらっています。それが都住創の現状です。

ネイキッドスクエア

それからついでに寝屋川の萱島の方の話を先にさせていただきます。そこにペーパーが続いてあります。コーポラティブ新町屋云々と書いていますが、ここ萱島地区というのはご存知のとおり

狭小住宅の密集地として計画的にそれを整備していかなければならないという地区になるわけです。ですから道路、公園の整備あるいは防災といったことと一体で進めていかなければならないと、それでここにも書きましたが、住宅、集合住宅を意味しますが、住宅を作ることが即道路を作ることであったり、街を作ることであったりするわけですし、その萱島という街にどんなビルディングタイプの家を作ることがいいのかということでもずいぶん考えました。そこで考えましたことは、この 6 ページの左の中ぐらいに書いてますが、寝屋川市における都心住宅の一つのモデルを作りたい

ということを考えました。都住創は大阪の都心住宅であってネイキッドスクエアというのは寝屋川萱島の都心住宅であると。ここで都心住宅ってなんだろうといったことで、また言葉勝手なことを言いますと色々突っ込まれるわけですけど、まあ団地住宅ではなくて、街の中に建っている市街地住宅というように考えればわかりやすいかなと思いました。そこでビルディングタイプをどうすればいいのかということが問題になったわけですけど、その問題提起をこっちはしていかなければならないと。そこで 6 ページの左の上の方に書いてますが、耐火で集合系やったらマンションやというのがすぐ発想することです。それからコストを下げるためには容積いっぱい積まなあかんということ、それが普通の考え方なんです。それで一回その短絡をやめてみようではないかと、それでここでは 3 階建ての長屋住宅を提案しました。それでじゃあそこでコスト下げるためにどうしたら良いんかと。ここでは大阪府の住宅供給公社の土地を使ってコーポラティブで住宅を供給するという場面だったんですけど、前提条件としまして、これも 6 ページの下の方に定期借地とコーポラティブ云々というところに書いてますが、庶民的な街並みを活かした住宅であると、それから地元の人でも購入できる低価格の住宅であると、それをコーポラティブ方式でやろうということ、この 3 つの基本合意というか、それが市、公社、我々参加させてもらった者のなかの共通の合意でした。それを実現していこうということで、じゃあその地元の人でも買える、買えるといっても本当に地元の人誰でも買えるわけではありません。土台家を買う話ですから、小さい家賃で住んでおられた方がその家買えるわけじゃないんですけど、そのへんはほどほどのところでものを考えてですね、そこそこ買い易くするということで、土地を定期借地にしたわけです。定期借地にすることによって容積を下げることができた、それで従来街並みとのスケールをある程度合わす事が出来たということで、これはまさに定期借地そのものを採用したことが都市空間の質を左右するような、それぐらい大きな決定だったというふうに思います。そこへ向けて建築を担当する人間がどんな家を計画するかというようなそんな場面であったんではなからうかと思えます。

それでどんなビルディングタイプ、形状の家を提供するかということが街との関係の中で、あるいはそこで住む人の気持ちの中でどう関係していくんかというようなことを考えました。この辺が都住創と違った状況の中で仕事をしたということになります。当然これ集合住宅ですので居住者同士の相互関係にまで立ち入って我々は仕事をしていかなければいけないということ、これは都住創とまったく同じことなんです。た

だし都住創の人は大阪の都心に住もうという人でして、寝屋川の萱島に住もうという人とはちょっと人の種類が違います。だから違った種類の人達とのお付き合いということで、そこが違うんですけど、まあ人間と人間の関係というのはまったく同じですので、これは共通点だと思います。それからもう一つはここでやらしていただいて、これは最初だったんですけど、その後もその横にこれは高層のコーポラティブの住宅を作るとかというようなことを続けてやらせていただいています。今日はその資料はお渡ししていませんが片鱗はスライドでお見せできると思います。同時に緑道を作ったり道路の拡幅はもちろんです、それから親水公園と名づけていますが、川を改修した公園を作るといったようなことをセットで作っていますので面的なパワーを地元で持つことが出来るということで、その辺が都住創とはだいぶ違います。都住創はスポットですからね。違います、コーポラティブということで地元の人々とも話しをする機会をもったりしながら進めていったというようなことがあります、まあそれなりに意味があったと思っています。

それで土地の定期借地のやり方はどうであったかと、それから細かいビルディングタイプについてどうであったかということはお手元にお渡ししたもののなかにある程度は書いてありますので読んでいただきまして、あるいは後でご質問の形で何か尋ねていただきましたらご説明いたしますが、今日のテーマとちょっとその所へ入っていくと違いますのでその辺は省いていきたいと思っています。そうしますとここからは話しがダブってきますのでスライドを見ていただきましてスライドでお話しさせていただこうと思います。

(ここからスライドによる講演)

再び、都住創

これは表紙だと思ってください。この小さい字の所には色々なことを書いているんですけど、今ちょっとお話ししたようなことを、何をしてきたか、何をしているか、何をしていくか、まあ大体のことはお話ししたいと思います。

地図で言いますとこれが大阪城です。ここが天満橋ですこれが谷町筋です。それで我々のエリアと自称していますが、このところでありまして、これが松屋町筋です。これが土佐堀通りですか、このところが上町大地の北の方、この辺の所でやりたいなといいながらやってきたのが結果的にわりとここにライフル撃ったような格好でまとまったという事で、ここにもあります。それなりにちょこちょこあるんですけど大体こんな所に住もうと考えたわけです。

大体こんなところ。えーこんな所に住むの？ というような写真に見えますがそれは大阪市が悪いんです。

これが第1号でして松屋町筋に面した近いところに建っています。最初は手探りでコーポラティブをやりましたので、企画した大きさをきちっと決めまして、中はそれぞれ自由になってるんですけど、建物全体としては非常に硬くまとまっています。

これが4番目のものです。1番2番3番でこのシステムそのものを手探りでやりながら2番3番やっている間にだいたいこのやりかたでいけるなと感じたものですから、4番目では比較的自由なプランニングをやったその中の自由なプランニングが外に出てくると、それで大きさもまちまちというようなことをやりました。ちょうどこの頃ルシヤンクロールが注目されていた時期でして、なんとなくそんなの影響を受けているということはいえると思います。

道路に面して店舗を作ったりいたしまして、道から見たときにこういう方状のものができて、それなりに街に対してもかなり当時は目立ちました。

これが5番目の建物です。ここにウツボと書いていますが手前がウツボ公園で今ここテニスコートになっていますが、そこにこういう非常にシンプルなものを作りました。外から見たらこのフレームがシンプルなんですけど中は全部色々です。この隣がマンションですね、まあ一般のマンションって大体こんなんで、ちょっと違うもんができてるといえると思います。(はい次お願いします) こんな感じです。これ夜の電気のつき方見たらそれぞれ家が違っているなということが分かると思います。まあこんなものをやりました。

これが12番目です。ポストモダン云々という時期でしたから、こんな格好になったと、今見た時にどうだろうということもありますが。

今見たらこんなんです。ベランダいっぱい木が生えまして、まあそれはそれなりに一つの雰囲気が出てはいます。

これは森之宮でやったんですけど、小さなものなんですけど、前に1本木を植えました。地面から1本の木を植えるようなことをすること、これが街の中に対してかなりの威力を持つなということを目指しました。これ最近の写真です。ですからこのハナノキがすごく大きく茂って、この街あんまりきれいじゃないんですけど、これ1本あることでずいぶん雰囲気が違うなというような格好になっています。

これは清水台のあたりで作ったものでして、これちょっと冬ですので植木が枯れてますが、この辺は季節によってはかなり木が伸びてきます。それでこんな所にこんなようなオブジェを作ったりしました。これよくやる手ですが、みんなで信楽行って陶板焼いてきて、それで焼くときは勢いで焼いたけどどうやって使おうというようなことになりまして、まあこんなオブジェでも作ろうかというようなことで作ったんですけど。大体こんなもんでして、今でも時々道行く人がこれ何というようなことで見てくれていまして、これもよくやる手ですが子供たちが書いた絵等がそれなりに一つ記念として残っているといたたものです。これは上本町の日赤病院の南側ぐらいで建てたものです。

ちょっとインテリア見ていただきます。これ少し古い時期のインテリアなんですけど、まあこういうようにかなり自由に物をつくるということは最初からやっていたわけですね。

これなんか今にして思えばすごいクラシクな形ですけど、こんなものを一生懸命つくっていたと、この空調機見たらいかに古いかということが分かりますね。

それからこれはかなりマニアックな人の住まう家です。これ全部漆塗りなんです。それでこの漆も中国産ではなくてナイチ産の漆を取り寄せて半年かかって自分で塗りはりました。そういう人もいます。やはりそれだけのことはありまして、ご存知のとおり漆というのは暑いときに室の中でしごとするようなことをしないと乾燥しないわけなんですけど、それは大変でした。でもやり遂げました。(はい次お願いします)まあこんな物も作ったというようなことで見ていただいたらけっこうだと思います。

インテリアはパツパツいきますがこんな家も作りました。

これなんか家具を作って家を作っていくというようなことも実験的にやりましたが、結局これ好きなことやっているなど見えるわけなんですけど、マンションの中の一つ一つの家を自分の思いでこれくらい出来るんだよということ、そこに対する一つの問題提起やったと思っています。

これなんかは最近ですね、最近の雰囲気というのは軽い感じというのがありますが、まあこんな家もあります。

これなんかまさにそうですね、さっき一番初めの2枚ほど見ていただいた古いタイプと新しい若者に受け入れられるタイプと2通りあると思います。

どっちが良いかということになりますとちょっと時間がかかりますね。

それからオフィスがこの中に平気で入っています。オフィスと住宅というものをそんなに区割りして考えていません。都心というところは住むところと仕事をする所とが一緒であって当たり前だという考えで、どちらかといったら英国系のアングロサクソンの人達の考え方じゃなくて地中海のラテン系の人達が考えるビルディングタイプというのが都市の住宅だというように思っておりまして、そんな事を平気でやっています。

これオフィスの中です。

これ最近のものなんですけどね、また少しこういうものに回帰している部分もあるというか、色々な趣味の人が増えてきたということかな、こういうスタイルも出てきています。(はい次お願いします)これその家の寝室なんですけど、こういうスタイルにこだわっている人が最近少し増えている感じがします。

これはごらんのとおり健康志向です全部木を使って、この下には墨が入っています。健康志向というのも一つの今の流れの中にはあります。

しかし非常に気持ちがいいですね、これも自然の木が使ってあってこの中で素足で歩いて生活しますと気持ちがいいです。これはやっぱり今後の世の中に向けての一つの真剣に考えないといけない部分ではないかと思えます。

さてこういう格好ですね、さっき同じ地図見ていただきましたが、こんだけこう集まっているわけですね。そこで何か横へ繋ぐ要素を考えないといけないなど申し上げましたが(はい次お願いします)これが10番目の建物です。これが13番目の建物なんですけど、この10番目の建物を作るときにみんなで集まれる場所を作ろうではないかということでここにスペースを編み出しまして30坪ほどの場所を共同出資で作りました。

ここに設立準備会 1982年11月13日と書いていますね。これはどっかの棟のある人の家の中へ集まってみんなでどうしようあうしようという話しをしている時の写真です。

それから現場の中でこうやって会議したりしました。

その同じ時に盛り上げるために、子供ギャラリーと書いていますが現場の中で展覧会しようかというようなことで盛り上げながら場所を作っていくとしていきます。この場所がそうです。これが作ったセンターそのものです。コンクリート打ち終わって何も無い時にじゃあ早速工事中の所使おう

かというようなことをやったわけですね。
それから道端でバザーをやったりもしました。
つまりこれ全部街を我が物にしてですね、道も全部自分の所の庭やというようなことで使っていると考えていただくと一番分かりやすいですね。センター完成 1984 年ということでみんなでよってたかって遊んだわけです。

まあこれは 3 日ぐらい色々なことをやりました。ようまあ元気にやっていたなと当時のことですが、思います。これ藤本さんきて、この時に確か「文化文政」と黒板に書きましてね、江戸時代の文化が一種の爛熟期になった頃の話はされましたが、この場所ってというのは街の中でそういうことがあった時期ではないかなという気がします。

まあやったことをちょっと見ていただきます。こうやって落語やったりですね、色々なことをやっています。

この落語は未だに続いてやっています。それから中は展覧会やったり。

色々な人がおりまして、こういうアーティストも中にはいっぱいおりますが、そんな人がこういう会合で即興で絵を描いたりなんかをしましてみんなによってたかって楽しもうというようなことをしているわけです。

それから今日ここで話を聞いていただいています。それと同じようなことを毎月 1 回テーマを決めてやっています。それで話していただいた後でかならずちょっと一杯飲みながらおしゃべりするということをしてはいますが、まあこれが一種の都会の遊び、楽しみということでもって定着させていっているということです。

こんな阿呆なこともやりました。これ 15 番目の建物なんですけどこの家に縛られてんの嫌やから逆に家縛ろうかと言ってラッピングしてやりましたが、この布買ってきて大変やったんです。我々も若かったですからみんなでこの住人の人とやりましたけどね。今はもうこんな阿呆なことようしません。これもご愛嬌といえはご愛嬌かなというように思います。

OMM ビルの南側の角に建っています。どっちかといえば街に向かってちゃんとした顔をしながら建っている建物というのはこれが初めてです。まあ最初で最後かも知れませんが、これが 47 戸中に入っています。

こんな感じですね。これが大阪歯科大ですか、こっちにいったら大阪城ですここが OMM ビルです。これはドーンセンターです。

街に向かってもそれなりに我在りというかそれぐ

らしい感じのものにはなっています。この横にはレストランが在ったりしまして、街の中の建物としてそれなりの形にはなっています。(はい次お願いします) 玄関入った所です。

屋上上がりますと大阪城見えるんです。それでここはたまたま大阪城の旧三之丸跡地だったようにして下から石垣が出てきたりいたしました。この屋上が気持ち良くて、この大阪城のこのあたりの紅葉なんか見事ですし、街の中に良い所があると、この人達は実感しています。

北側を見ますとここに大川がありまして、天神祭りのときはここからずーと向こうへ行って帰ってくるわけです。それでこちら辺で花火が上がるわけです。ということでこの住人たちは 7 月 25 日の夜ここでパーティーをするということを定例行事に決めて今後未来永劫ずっとやると言っています。

これは 20 番目でして小さい公園がああたりにあるわけですけど、その公園に面して建っています。

こっちから見て、街並みに向かってそれなりに街並みを崩さないで建っているというような感じでものを作りました。

それでこれが幻の 21 号になりそう(きつとなると思いますけど) 建物でして、これは一番最初のイメージ図ですが、この中で色々なことをやろうと考えていました。例えばどっかでグループホームをやってください、どっかこの辺持って賃貸してもかまいませんとか、あるいは建築家が自分の友達を連れてきてここで好きな家を作ってくださいと、この A という建築家、この B という建築家も自分の知り合い連れてきてここで家作ってくださいというようなコラボレーションもやろうやないかと企画していました。その考え方はここでなくてもできるわけですから機会があればそういうこともしてみたいと思いますが、都市の中にはこういう決まりがあってこの中に全部はめて行くというよりも一回緩やかにしてそのゆるやかなものの中で寄り集まりをどうまとめていくかということが一番大事なことかなということを未だに考えています。それで持ってあれこれ破綻をきたしているわけですけどそれを破綻きたさないような複雑系の技術というんですか、そんなことをどんどん開発していく必要があるかなと思っています。

都市再生など

また地図が出てきましたね。

これはアメリカのニューヨークですが、街ってこ

んな具合になったらいいなというイメージのライドを何枚に入れました。

これはワシントンスクエアですが、この前に建っている建物というのは1831年のローハウスなんですね、未だにちゃんと命を保っていて（今確かこの辺ゆうたらニューヨーク大学院の施設に使われているとかいうようなことだったと思います）けどその街の中にちゃんとその時期の家がストックとして成立していることの羨ましさみたいなことを見ていただこうと思ひまして入れました。

これはそのアップですね。

これはご存知のチュウダーシティですが1925年頃から5年位かけて作ったんじゃないですかね。結局その頃のものが今ちゃんと生きているというのがなんともまたいいなと思って入れたんです。街ってそうやって出来ていくんちゃうかなという思いです。

これは鳥瞰図ですね。たしかこの中に住宅が3000くらい入っていたと思いますね。それでホテルの部屋が500、600あったんじゃないかな、そういうようなものが複合して出来ていっていると、ちょっとそこで最初に申し上げた都市再生の建物の建ち方と少し比較しながら物を考えているという伏線があるんです。それでたまたま昨日、都市再生の建物、表面つるつるのぬめぬめの建物がどんどん出来ていってそればかりやという話しを神戸大学の平山さんがおっしゃってましたが、まさに今出来ている都市再生の建物いうたら表面つるつるのものばかりなんですけどね、街って本当にあんなでいいんやろか、何もこのデザインがベストだというんではないんですけど、そういう都市環境を作っていくということに関して今の都市再生はもう一つ配慮足らんというように感じます。

これはご存知ロックフェラーセンターでちょうど今頃の時期はこういうように毎年なるわけでありませう。

街の中でこういうことが起こってみんながこれを一生懸命一つの楽しみにしているということ、それがどうすれば街が快適になるかということの秘訣というか、これにつきると思うんです。それでさっき希望を持って都市のイメージ云々とか言いましたが、そういう街に対する思いみたいなものがどっかに集中していくムーブメントを作っていくんことにはやっぱりいかなのとちゃうかなということと思うと、こういうことがなんとも羨ましく感じます。

これはパリですね。これも言わんとしていることは同じでして、街それなりに雰囲気あるやんという一語につきる訳です。

ルーブル行ったらこんな物があるってやっぱり街をみんなで楽しんでいると、もろろこの中にある物はすごい物がありますから世界中から集まってきたそのツーリストばかりの存在の街になっているというようにあると思いますけど、まあそれはそれとして、街ってこういう格好で盛り上がっていくと違うかなという一つのシンボル、そんなような気がします。

それでこれが川の向こう側のオルセー美術館ですね。これもご存知のとおりなんですけど。

中見たらこんなですね。それでここに時計がありますけど、これが以前からあった時計やということを次の写真で。

これ汽車の駅でしたよね。ここに時計あります。この駅は早くから使われない状態であったというように書いてありますが、これをあういうものにちゃんと変えて街の中で使っているということが街をいかに楽しんでいるかということではなからうかと思ひます。

まあこんなもご愛嬌ですね、これもパリのどっか街角の風景ですけど街を全部自分の物にするこの上手さみたいなものをこんな所に感じます。ですからその意図していることに対する、うんなるほどということさっき言いましたが、そんなものが随所に街の中にあるというのはなかなか立派やなと思ひます。外国の街が必ずしも良いとは思わないんですけど、やっぱり良いところは良いなという気がします。

これ今でも大阪の阪南町の所にこの長屋あるんです。こんなに美しいものが街の中に在ったんです。これがちょうど1920年代後半から1930年代にかけての頃に出来たわけですが、大正から昭和にかけてですから、けど今はもう容積が低いであるとか木造であるとかいうようなことで一種の命脈は尽きてますけれど、街をこんなに一生懸命デザインしながら物を作っている姿っていうのは今の借家にあるかなと思つたら絶対ありませぬ。

これ全然違う場面ですけど、長屋の原型知っておられる方はこれ一回見たときにあれとこれと違うからいうようなことで我々がいい加減なこと言ったら怒りますけど、そんなことは関係なしに雰囲気として見た時に街の長屋をこんな具合に一生懸命作っているということがあって、それが今どうして街に受け継がれていかないのかなということも思ひます。

再び、ネイキッドスクエア

ここから萱島に移ります。今似たような家並みだったんですけど、こんなに違う所があるということなんです。それでこれちょっと以前の写真で少し最近こういうのがなくなってきました。

これはまだ在ります。割と格好良いんですこの文化住宅。これはさっきの阪南町の長屋に負けないほどの一生懸命さがあるかなと思ったりしています。

これもこの家とこの家が別々で、ここから玄関、一つは上に上がる階段で一つはここから入るというごっついキッチンな建物ですけどこれ未だに生きてます。これ萱島にある建物で私の非常に好きな建物の一つです。

最近こういう格好になってきてるんです。まあ古いやつが撤去されてご存知の3階建ての家が並んでいます。この家の作り方に愛情はないですよ。さっきのキッチンな建物の方が家作るのに愛情があると思います。

まあこういうような場所です。

地図で言いますとここが京阪電車でこっちが京都、こっちが大阪です。ここに駅がありまして、これだけで48.6ヘクタールでしたかね、こんだけの地域を指定して密集市街地を整備する地域に決めております。この赤く囲った所が重点整備地区というんですか、特に状態が良くない所でここは重点的にやらなければいけないと、それでこっちの白い所が拠点の開発地区といまして、まあ考えようによってはここを整備するときに受け皿住宅をこっちで作るといことで公的な住宅を用意すると、そういう場所に設定されています。でもこっち来たら家賃上がるんですよ。ここの人の受け皿やというんですけどなかなか受け皿になっていないというのが現実でありますけど、まあ政策的な考え方としてはそういうような区分で分けています。

それぞれの右側の白い所の拠点の開発地区という所の中でやりましたことをこれからちょっと見ていただきます。それで今日見ていただきますのは主にここなんですけど、ここに大阪府の住宅供給公社が地元の人から定期借地をしまして特約賃の賃貸住宅を作りました。それでここに府営住宅が建ってまして、今増築中かなと思います。それでまあこういうものがあって面開発的に広がっています。ここの3番目の所にどんな家を作ろうかということをごく悩んで作ったんです。この辺がさっき空から見た写真のような密集住宅地なんです。それでこれとこれのスケールの問題があ

る。それからまさにこれは神戸の震災の直後ぐらいに計画をしていましてあの長田地区で起こったことがここでいつ起こっても不思議でないようなそういう場所であったわけですから防災ということにはかなりの神経が使われていまして、まあ燃えない家であると同時に防災拠点的な一時避難できる場所をどういうように作るかということがテーマの一つになっています。それでこれをやるについてここの道が元々3mぐらいの道だったんですけどこれが今6.7mの道と歩道がありまして9mぐらいあるんですけどね。逆に広すぎてこれはちょっとあんまり締まりないなと思うんですけど安全ということから言うたら広くしても悪くないということです。それでここに農業用の水路がありまして、この水路こっちからこっちへ流れています。これを整備して今この間だけが公園のようになっています。ここに緑道を作りました。そうして土地を分割しておいてここにコーポラティブのタウンハウスを作って、ここに公社の特約賃が出来まして、今現在ここがこの辺までできてここを最後の工事やってまして来年3月にこれ出来たら大体この絵が全部出来上がりというようなことなんです。その間で大体、元々担当されている方はもう10年ぐらい前からの話なんですけど、私はここで6年、7年近く関わりを持たせてもらっています。

これがネイキッドスクエアというものでしてこんなもの作ったんです。それで周りの状態を見ていただいたら、周りとの一種のスケール感を合わすというようなこと、それともう一つスケール感の一部としてデザインをいかに小さく分節化していくかというようなことが一つのテーマでした。それはコーポラティブという手法に負う所が大きいわけですし、ここの家とここの家は本来裏返しの関係なんです、だけどここに住む人とここに住む人が違うことによってこの家とこの家はこう変わっていると、これとこれも裏返しの関係なんです、だけどこれとこれは変わっている、というようなことが随所にあって、結果的に割合変化にとんだものが出来ました。

これが親水公園です。これが緑道です。

その緑道から見た所です。この緑道に関しましては、ここに水路がありまして、ここの建物は際まで建てまして、ここに植え込みを作っています。後でちょっとお話しますが、子供たちがここの窓まで行って問題になっているということがありません。この水は子供達を向こうに行かさないためのバリアなのですが、水があるから喜んで入ってく

るといことが起こったりしてしまして、なかなかもの作るって難しいなと最近感じます。それと、ここ出来た時しばらくこの植木を誰も管理しなかったんです。水やる人がいなかったんです。作った住宅供給公社が工事して市の公園課に移管するというのが、受け取った受け取ってないといったような話で、誰も水やらない時期があったんです。サツキなんかはすぐ枯れますから、ここに住む人達が怒り出しまして、もう自分たちで水やる、という所までいったという経緯があります。それで生き返ったと、その時私が何の役割をしたかという30mのホースを3つ手に入れてきて彼らに渡して水をやってもらったという経緯があります。ここが川で、こっちが親水公園側です。ここに建っているのはその後でできたものでしてちょっと大きいです。こっちは10階建てです。これが親水公園です。こうしてまあ地域としては居心地のいい場所ができたもんですから、子供たちも大人たちも遊びに来てくれてうれしいんですが、それが逆に住んでいる人間にとって具合悪い事態が起こったりしているということがあります。また後で申し上げます。

ビルディングタイプ云々というようなことを言いましたが、こんな家にしたんです。これが北側の道、こっちが親水公園、こっちが緑道、こっちは隣地です。それで車はここから入ってきてここが駐車場です。それでここに通り抜けの通路を作りまして、この間にこっちの家とこっちの家が半分半分作る専用庭があります。こういうようなパターンで家を作りました。これ建物一棟なんです。ずーとこれ繋がってます。

一棟でしょ。これで一軒一軒こう2重壁になって、実は基礎は繋がっているけど地上部分の壁は離れてるんです。これは3階建てで、この人の敷地はここからこれだけですよとかいうような約束事がありまして、それでここが通れる所なんです。これ2階ですが、下1階はこう抜けているわけです。ここはこの人の権利やけどこの1階にはものを作らないでくださいねというような約束事ができているとか、そういう格好で家を作りました。これずっと一筆で書けますので敷地がいくら大きくてもどこまでも続いていくことができるんです。続いていきますが、ちゃんと分節できていますので続いていってスケールアウトにならない仕掛けになっているんです。同時にこれをコーポラティブでやるかぎりにおいてはそれぞれの要求が全部建物の外側に出てきますので分節しながら、かつ表情は変わってくる、ということの仕掛けになっ

ているんです。ここのそのビルディングタイプを発見したときにこれで解けたと思いました。そういうのないわくつきのとんでもない荒唐無稽なプランニングなんです。ここには道路に対して街路形成型と中庭囲い型というのが考え方としてありまして、それでこの中庭には車もどんどん置くというような考え方です。

これ3階です。それで一時屋根の上にジョギングコース作るかなと思っていたんですけど、家が変わっていったら3階のない所ができてたりしてジョギングできないなというような事になった訳ですけど、まあこんなビルディングタイプを提示しました。

これは緑道風景です。こっちが今の建物です。この下穴空いている所から中に入っていくことになります。これは今やっているやつです。

これが今の中です。向こうが緑道でしてこういう穴が空いていまして、そこから入ってくるようになっていきます。手前から入って行って、この左側が駐車場です。それで内部にこういう通路がありまして、そこからそれぞれの家にアクセスするようになっていきます。ですからこの空間がお互い同士の共有空間、連携プレイをする空間とかそんな事として割合役に立っているんじゃないかと思います。

これ駐車場ですね。ここに大半の車は入ります。100%入っています。

その駐車場が突如として車を放り出しますとパーティー会場になります。よくこの間車どうしてんのと言われるんですけど、これ不法駐車してるんですと言ってます。時間限定の不法駐車をしてパーティー会場を設営するということなんです。ここにこれだけの穴あけていることが全体の割と込み入ったスケールでできている中では役に立っています。これが命です。

それでその時みんなでこうやって出て来るとかいうようなことがあります。結局こうやって出て来てみんなこの場所をやや非日常的に共有しているというような関係があります。

通路の所にもこういうように出てきます。ここには車ありませんから普段でも出来るんですけどね。この写真私なんとなく好きです。この家の中の人前まで出張ってきて自分の生活をここまで持ち出して、こっちの人は何か別のことやってる、この人とこの人は関係持つ、というような、そういう街の出来方みたいなことをしたら結構街は面白いというような気がします。

これもいつもみなさんに見ていただいているんで

すけど、内部通路に面してこういう窓を付けました。ここの人は全部外向きに店のショーウィンドウみたいな格好で物を飾っています。

季節が変わって冬になりますとクリスマスの設えになります。

春になるとお雛さんになります。

5月になるとこんなことになります。これは何かおじいさんが孫に買い与えた兜だったらいいです。この方はいわゆるご近所の密集地の中に住んでおられまして、これをおじいさんから貰ったけど飾る場所がずっとなかったと、やっとここへ飾れたと、ものすごく喜んでいましたね。

家の中見ていただいたら、これブロックで作ってまして、何ゆえにブロックかというのもあるんですけどお渡しした資料の中にもちょっと書いています。それで内も外もブロックでいってしまうという所も随分あります。

こんな家もあります。

こんな家もあります。

これはずっと塗ってですね少し手の込んだ家になっていますが、やっぱりどうやって集合ですむかということと同時にどうやって自分が一軒一軒の家の中で自分自身が楽しむかということがやっぱりなければならぬと思います。

それでさっきの緑道の話に戻りますが、これが今作っているものです。ここにホースありますね、これ私が用意したホースです。これでもってこの人が水をやることでこの木は命を永らえたということでして、もう今なんかこのクロガネモチも立派に根付いて赤い実がいっぱいになっているんじゃないかと思えます。それでさっき言ったせせらぎを作ることによって子供たちをここへ寄せない、それでここに塀を作らないんだというようなコンセプトだったんですけど、この中入って行ってここまで行って、ここの窓の前に立つんですね。そうすると中の方はそれなりの圧迫感はあるというようなことで、ちょっとどうするかだと気にする人は気にします。気にしない人は気にしないんですけど、なかなかご近所同士の付き合いやという形でまとまりません。マンションのようにかちと閉めて防音をやらなければならないという住宅に対する性能評価という考え方が片側できちと出来上がってます。これには良い面と悪い面がある気がしますが、それが行き過ぎますと音が聞こえてやかましい、隣の音が聞こえてどうやといったことが問題になります。マンションスタイルの場合割合その辺のことはないんですけどこういう長屋形式の場合はその問題があるの

で、まあ難しい問題が一つあったなと思っていません。

これは全然関係ない人がこうやって来て座ったりこの辺でくつろいでるんです。こんな状態が緑道の中にできています。街の中でこういう雰囲気ができるというのはすごく良い事だと私は思っています。ましてこういう密集地の中にこういう空間ができるというのはそれなりに良い事だと思うんですけど、こんなんできたからいっぱい集まってきてうるさいという問題できてきて、これどうしたらいいんですかね、後の議論の中で教えてください。

これは太陽を防ぐと同時に視線を防ぐというような意味もありますね。

これは中を通り抜け出せるんです。ここに扉がないんです。上海に里弄住宅というのがあるのをご存知だと思いますが、今あれを潰して超高層のビルにバンバン変わっていったりしてますけど、あの作りと大体似たような格好であって、ちょっと入りにくいんですけどやっぱり人は時々通るんですね。そうすると中の方は嫌がってバリアを作るんですね。これどうしたもんかなと思うんですけどね。それでここに私有地であるから立ち入りするなと書いてあるんです。これも私は気に入らんですけど住んでいる人の身になった時にはまあそうかなというようなことを思いました。以前江川さんと話したときにこういう時は通ってくれてもいいけどここは自分達の大事な場所やからちゃんと通ってくれよ、というような事を書くのが正解ではなからうかと話した事があるんですが、私もそう思うんです。でもそれでは済まんからこんなことになるわけです。この切り株は材木屋へ行って木切ってもらってスツールにしたら良いと思って1個2000円位で用意したんですけど、それがこうやってバリアになってちょっとなさけないです。それからこれは水の所に子供が入るからということで市の公園課にここの人がクレームつけたら市の人が来てこんな汚いもの作るんです。もうちょっとやりようがあると思うんですけど。

ここが人が集まる所でここに石が有って遊ぶのに心地良いんです。それでここの人はやや神経質になっておられるということでした。

それでこれどうしたら良いやろという話でして、ここに手すりつけて見えないように木を植えたらどうだろというような事を一つの考え方として出したりして、ここの人達もそれを議論して公園課の人にこうしたらどうやると言ったら、お金がないと、自分所見られるのが嫌だったら自分で何と

かしてというふうに今議論が進んでいるみたいですが、入らんようにするためにちょっときれいな柵にせんと、あんなロープ張って汚いことするよりもうちよとちゃんとした方が良くないか、けれど寝屋川市も大阪市も予算ないんですかね、こういうことには興味を示してくれないというか物事が跳ね返ってくるわけです。そのこの所の議論をしながらこういうプライベートの所とパブリックな所の接点がきれいにできることによって街って良くなって行くんじゃないかと、それが街の快適さだと思ったり言ったりしてるんです。これはそんなことの一例として議論のサンプルとして見て頂きます。

これが親水公園なんです。ここにウッドデッキ作ってわりとちゃんとできてるんです。ご近所の方がブルーシート敷いて朝早くから将棋したりするんです。それでその人達が朝早くからしゃべってるさという事とか夏ここで中学生くらいの若者が花火してパトカー呼んだり、やっぱりこういう場所を作ることがいろいろな問題を生み出すということを目のあたりに見ますと街って作るのが難しいなと思います。

そういうようなことで、こんどは空いている側のここに共用ルームを作りまして、ここへパン屋さん作りたいということで企画してるんですけど、こっちはパン屋作ったらお客いっぱい来るやろというような議論があったり、自転車乗ってきたとき自転車どうするのという話が合ったりします。とりあえずまだ出来てませんからいっぺん閉めてここテラス中から使うという格好に今中の人が出来てしまったんです。これがもう少しこなれて街との関係で発展的に動き出すという事を期待したりそんな事を物言ったりしているんですけど、どうやったらうまく行くかなと思ったりしています。

これは今のプランですね。ここが緑道でして、ここが親水公園でこっちはネイキッドスクエアです。ここに共用施設がありまして、これ一般の共用施設なんですけど、ここにそういうお店ができる設えがしてありまして、ここのパン屋さんのパンを食べながらこの辺の近所の人みんな話してたらどうなのとか、テラスでお茶飲みながらパン食べながら話してたらどうなの、そんなことを言ってるんですけど、それはそれで分かるけどやっぱりそれだけじゃないよというような所があるようです。それで中の人も出てきてここでパン食べるとか、子供が夕方帰ってきてお母さんがどっかに働きにいった時にお母さん走って帰って来んでもここで

とりあえずパン食べて飢えをしのいでおればお母さん歩いて帰って来れるのになという話いっぱいしてるんですけどね、難しいですね。そんなような場所です。ここに物ができる前の航空写真です。これは公社の特有賃なんですけど、これが出来た時の航空写真です。

それで今の写真とこの写真が似てるといつも言ってるんですけど、誰も皮肉っぽく笑う人が多いんですけど、ゆくゆくは30年経っても40年経ってもいいからあの寝屋川の街がこんな具合になったらどうだろうという事をイメージとして共有したらどうということをよく言ってるんです。これはパリ郊外のロラン・ガロスです。全仏オープンやる所です。ですからこの辺りきれいにできていて当たり前なんですけどね、そんなこともやっぱり一本の木から始まるやん。寝屋川のあそこに木一本も生えてへんけど行々はこんな街になるよというそんなイメージを共有したらどうだろうか。それでさっき見ていただいた密集地をきれいにして行くという地域です、というような平面図に赤い線引いたり白い線引いたりしてこうなります、というあれからはイメージ出てこないと思うんです。それはそれとして計画としてやらないといけないんですけど、最終的にこんな雰囲気になろうやというイメージを共有しながら街を考えていくと面白いかなというように思います。これで終わらせて頂きます。ありがとうございました。(拍手)